

『自分を客観視できる力』

学校長 佐武正章

桜のつぼみも膨らみ始め、春の訪れを感じさせる良い季節となりました。本日、明洋中学校を巣立つ106名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆様、立派に成長されたお子様のご卒業おめでとうございます。義務教育9年間の修了を心からお祝い申し上げます。

卒業生の皆さんは、この3年間、保護者や地域の皆さんに支えて頂きながら、仲間と共に励まし合い、時には苦しさにも耐え、喜びに心躍らせながら諸先生方の指導のもと、心と体を鍛え成長しました。皆さんの姿は、いつも明るく生き生きとしていました。

さて、皆さんと一緒に過ごした中での印象や思い出を少し述べたいと思います。

一つ目は、1年生の時から今日まで、授業や集会で話を聞く態度や姿勢が素晴らしく、全体として浸透していることに感心してきました。このことは、下級生の本当によい手本となりました。また、集中して体育行事や修学旅行等に取り組む姿は、1組から3組までどのクラスも立派なものでした。

二つ目は、集団の決まりやルールを大切にしたり、冬の寒い日も夏の暑い日も根気強く部活動に励んだりして、日々の練習や演奏・作品づくりに打ち込んだことです。各体育クラブの熱心な練習や文化クラブの素晴らしい活動、教科で学んだ取り組みを通じて、最後までやり通す忍耐力と自信が身につけてきたように感じます。

このことは、吹奏楽の各種コンテストや作曲コンクール、各種作文・俳句・絵画の作品が最優秀や入賞したり、学校全体で取り組んだ駅伝大会も連覇を果たすなど数々の好成績につながりました。

三つ目は、日頃の学習や練習等の成果を存分に発揮し、各諸行事を見事に成功させてきたことです。先ず文化発表会です。中でも、恒例の3年生による劇団明洋の演劇「キケン（棄権）」は、会場全体を感動させました。保護者や地域の方々からは「思いやりの心が溢れた素晴らしい演劇でした」との高い評価を頂きました。また、私たちの大先輩である東京オリンピック金メダリストの早田卓次さんの講演では、夢や目標に向けて、日々努力し続けることの大切さを学びました。特に、74歳の早田さんの逆立ちには驚きました。他にも、3年生が夏から取り組んだ「熊野古道語り部の英語発表」を郡や県の英語発表会でも披露したり、韓国教職員31名に紹介したりしました。それ以外にも花植エボランティア、避難訓練、公民館との共催行事、児童館との連携行事、校区の幼稚園や保育所訪問など、どれも学校と地域を結び学社融合の素晴らしい取り組みで、自分たちも地域に貢献していることを体感する機会になりました。

さて、ここで卒業生の皆さんに、励ましの言葉を贈りたいと思います。

皆さんもご存知の、ソチオリンピックで金メダルに輝いたフィギュアスケートの羽生結弦選手は、次のように言っています。オリンピックに臨むときは、「気分が高ぶっているけれど、高ぶっている自分を客観視できる自分もいます」また、「僕は4回転ジャンプを飛ぶ直前に、頭の中に成功する軌道のイメージが湧いて、そこに身体を乗っけて飛ぶのです」と。また、早田選手も、東京オリンピックのつり輪種目で最後のフィニッシュを決める前に、自分の完璧な着地をすでに頭に描いていたそうです。だから自信を持って決めることができたとのこと。皆さんは、自分の姿や行動を客観的に見ることができますか。

自分を客観視できる能力のことを「メタ認知」といいます。ものごとを客観的に見る力は、脳の前頭葉の働きによって決まるそうです。前頭葉は両耳を頭のとっぺんで結んだ線の前側の部分にあります。人間は他の動物と比べて、この前頭葉が発達しているのが特徴だそうです。そして前頭葉を鍛えることで、冷静にプランをたてる、目標を定める、人間関係を円滑にする、未来を構築するといったことに力が発揮できるようになるそうです。

人は、ついつい自分の考えや行動は正しいのだと思い込んだり、自分だけがつらく苦しい思いをしているのではと悩んだりしますが、果たしてそうでしょうか。自分自身を第三者の目で鳥瞰してみると、自分の独りよがりや周囲に支えられていること、頑張っている自分に気づくのではないのでしょうか。

卒業生の皆さんも、脳に描いた最高の瞬間やイメージを現実化できるよう、日々の努力を大切に、次の環境でも自分の可能性や何か新しいことに挑戦して欲しいと願います。

在校生の皆さんは、これまで卒業生の皆さんが残してくれた伝統と校風を立派に受け継ぎ、明洋中学校をさらに発展させていきましょう。

卒業生の皆さんの逞しい成長とご多幸、そして益々のご活躍を心からお祈りします。

公民館だより 平成27年4月号  
西部

発行：西部公民館 館長 高地勝司  
主事 大西光則  
電話：26-4925 FAX：25-6029  
事務所：田辺市高雄一丁目23番1号  
市民総合センター内



平成26年度 西部地域市民カレッジ参加のお礼 西部公民館

昨年度から実施してきました、西部地域市民カレッジも2月27日の最終講座をもって終了いたしました。第1回講座から第5回講座までご参加いただきました皆様方、本当にありがとうございました。

さて、最終講座につきましては、紀南文化財研究会会長の濱岸宏一先生をお招きして、西部地域のまとめ、「第1回講座から第4回講座を振り返って」というテーマでご講演をいただきました。

講演後は、8班編制によるグループ討議を行い、参加者の皆さんとともに西部地域のことについて話し合いをしました。

テーマ「西部地域のことについて話し合おう」

- a. 西部地域の素晴らしいと思うところはどこですか。
- b. 今後どのような地域になってほしいですか。
- c. 自分たち一人ひとりがどのようなことをしていかなければなりませんか。

a. について（参加者の意見）

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の豊かさ（天神崎・元島・江川三カ寺・会津大橋・上の山）など。</li> <li>・暮らしやすい・安全、安心の町・犯罪が少ない・生活面の環境が良い。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・隣近所の繋がり・挨拶・明るい人柄。</li> <li>・地域の伝統行事・豊富な歴史・先人の取組。</li> <li>・協力しあう幼・保・小・中学校・地域・児童館・西部センター・西部公民館の人々。</li> </ul> |
|--|--|

b. について（参加者の意見）

- ・高齢化・少子化が進む中、子どもたちが多くなり、若い人が参加しやすいような交流の場（子ども会やスポーツ）を持ちたい。
- ・若者が定住できる環境づくりや地域の歴史を語り継いでいくことに取り組みたい。

c. について（参加者の意見）

- ・いろんな活動をとおして参加していき、繋がりを深めて、若い人との交流を進めていきたい。
- ・挨拶などを通じて、子どもを中心にした取り組みを積極的に進めていきたい。
- ・西部地域の文化や歴史についても、カレッジで生かしていってもらいたい。
- ・行政の支援、市議会への働きかけなどを通じて調和のとれた開発を進めていきたい。

グループ討議終了後、各グループから発表がありました。最後のまとめで濱岸先生は、出てきた課題は、行政に頼るのではなく、まずは自分たち一人ひとりがどのようにすれば解決できるのかを考え、自分一人で解決できないことは、周りの人や町内会に相談し、最終手段として、行政側（西部公民館や西部センター、児童館）に相談に行くことをお進めします。また、日頃参加の少ない若い人への働きかけを強め西部地域の良さ・文化・歴史を受け継いでいってもらえるようにもしていかなければなりません。

そのためには、子どもから老若男女が集える企画や場づくりを推進していくことが望まれます。今後、西部地域の更なる発展を期待したいと思います。

## 第57回グラウンドゴルフ大会の結果 西部センター／西部公民館

去る3月8日（日）に「第57回西部センター・西部公民館グラウンドゴルフ大会」を実施しました。前日雨のため、グラウンドの状態は良くなかったのですが、ホールインワン賞も出て参加者も楽しそうに競技をしていました。



○第57回グラウンドゴルフ大会の結果は下記のとおりでした。

|     |     |       |    |   |
|-----|-----|-------|----|---|
| 個人賞 | 優勝  | 岡田 保穂 | 43 | 打 |
|     | 準優勝 | 岡田志奈子 | 43 | 打 |
|     | 3位  | 廣畑 一子 | 43 | 打 |



左：廣畑一子さん・中：岡田志奈子さん  
右：岡田保穂さん

## 西部地域学社融合推進協議会だより（No.9）西部公民館／田辺第三小学校

3月16日に、第2回西部地域学社融合推進協議会を開催しました。

本年度の取り組みを大橋江美子地域コーディネーターと田辺第三小学校の新谷千佳教務主任から説明がありました。

- ① 地域の宝物である天神崎学習を中心とした環境学習。
- ② 6年生が中心となって学習を進めた防災マップ作り・防災学習。
- ③ 学習支援ボランティアOK先生（老人クラブ）に支援していただいた学力向上の取り組み。
- ④ 児童館・西部センター・公民館・各種団体と連携した児童館遊び広場・御所谷坂花壇の取り組み。

当協議会は、上記の4つの視点を柱とした全22事業を地域の方々にご支援いただきながら着実に事業の展開を図ることができました。

次に、県共育コミュニティアンケート結果を報告しました。アンケートは2月の中旬に行ったもので、児童・保護者・教員・地域の皆様にもご協力をいただきました。西部地域のアンケート回収率は大変良かったと聞いています。ご協力ありがとうございました。

アンケートの一部をご紹介します。児童・保護者・教員・地域の方々の見解が一致している項目を以下に抜粋しました。

### \*「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」の値

|         |                            |       |
|---------|----------------------------|-------|
| 児童：     | 地域の人と挨拶をしたり話をしたりしている。      | 85.6% |
| 保護者・教員： | 児童が地域の方と会話をしている。           | 66.7% |
| 地域：     | 大人と挨拶や話ができるようになった。         | 82.4% |
| 児童：     | 地域の行事に参加している。              | 53.4% |
| 保護者：    | 地域の行事（まつりや地域清掃を含む）に参加している。 | 68.9% |
| 教員：     | 児童が地域の行事に参加している。           | 83.4% |
| 地域：     | 子どもに関する行事に地域の大人が参加している。    | 57.9% |

意見交換会では、児童の保護者もおられ、いつも学校を支援していただいている地域の方々に感謝のお礼をおっしゃっていました。

もう一つの意見としては、3年間活動してきた共育コミュニティ本部の組織を本年度も継承していただいたことに感謝します。また、今後もこの活動を維持していくには、組織の中にきちんとした計画があり、活動報告のできる場があること、これらの要素を持ち合わせているところは活動自体も長続きするので、是非今後も、組織をそのまま継続していただきたいと思っております。

## 西部公民館から作品展示のお知らせ

田辺第三小学校では、地域の皆様が学校に気軽に寄って頂ける学校づくりを目指しています。そのための取り組みの一つとして、3月は中畑太一さんの鉛筆画と和歌山市在住の土山美代子さん・古尾町内会の松本順子さんの共同作品（短冊と紙粘土）で作った十二支の作品を展示しました。



「ふるさとの思い出」  
（鉛筆画）  
中畑太一さん

12支粘土細工  
土山美代子さん  
松本 順子さん

## 田辺第三小学校 学校だより 3月号より抜粋

# もうすぐ進級・進学です！ 清心自立

学校内に子どもたちの卒業式で歌う歌声、呼びかけが響き渡っています。いよいよ進級・進学の時期を迎えました。23日には51名の6年生が田辺第三小学校を巣立っていきます。また、24日には1年生から5年生の修了式を行います。

先日行われた6年生を送る会では、全校児童で楽しい時間を過ごせましたが、各学年の子どもたちの成長した姿、態度に進級、進学の時期を迎えたと実感いたしました。保護者や地域の皆様方には、この1年間学校教育活動に本当にご協力いただきましたこと心より感謝申し上げます。

### 6年生を送る会



6年生のお兄さんお姉さんと、みんなで楽しくゲームをしました

6年生から在校生にメッセージがありました